

グローバル化のなかのインドシナの社会と法

岩瀬 真央美

Maomi Iwase

国際文化学部／国際文化学科

教授／博士（学術）



研究業績データベース

YouTube公式動画

キーワード

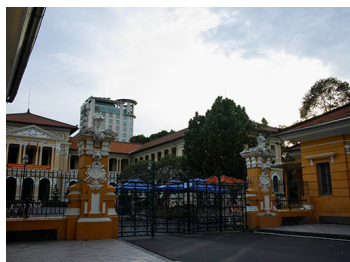
ベトナム法／国際投資法／外国投資／紛争処理制度

研究概要・実践活動

国際的な投資活動に関する法制度、特に外国投資家と投資受入国との間の紛争処理制度について、ベトナムを主たる研究対象として、国際法・国内法の両面から調査・研究しています。これまで、定期的・継続的にベトナムの大学や法律事務所などを訪問して、現地調査や情報収集をしています。また、フランス領インドシナ連邦という共通の歴史的背景を有するカンボジアとラオスを新たに研究対象として紛争処理制度の比較分析を行い、グローバル化の中でベトナム社会に適合的な紛争処理制度の構築に向けた課題や方向性を明らかにすることを目指しています。



最高人民裁判所（ベトナム・ハノイ）



ホーチミン市人民裁判所（ベトナム・ホーチミン市）



伝統的な市場（ベトナム・タインホア省）



王立法律経済大学（RULE）（カンボジア・プノンペン）



RULEでの特別講義

研究・社会活動実績

特定非営利法人アジア・環太平洋地域法律研究所（Research Institute of Law of the Asia-Pacific Region; RILAP）や日本カンボジア法律家の会（Japan Jurist League with Cambodia; JJリーグ）の一員として、ベトナムやカンボジアの大学において、紛争処理制度などに関する特別講義や学生指導（論文指導）などを行なっています。

産学官連携の可能性

様々な領域でグローバル化が進み、国際社会では相互依存関係が緊密化し、各地では「多文化社会」が形成されつつあります。主にベトナムにおける現地調査での体験をもとに、グローバル化のなかで生じる社会の変化を考察し、法制度の観点から、インドシナ三国における「多文化共生社会」について一緒に考えてみましょう。

近代上海租界の司法と社会

郭 まいか

Maika Kaku

国際文化学部／国際文化学科

講師／博士（文学）



研究業績データベース

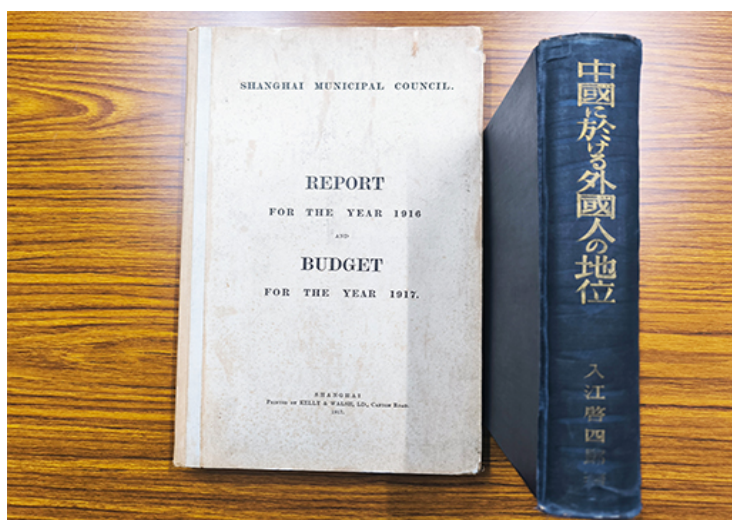
YouTube公式動画

キーワード

外国租界／上海共同租界／会審公廨／司法制度／治外法権／帝国主義／条約体制

研究概要・実践活動

近代中国における上海の外国租界について、制度や社会の面から、会審公廨(Mixed Court)という裁判所や、越界路地区と呼ばれる地域を研究しています。上海共同租界とは、国際的かつコスモポリタンな社会を形成していたとされる一方、帝国主義による侵略の象徴として、西洋と中国の対立の根源としても描かれてきました。しかし、会審公廨の組織や、公廨が扱った犯罪者引渡問題・国籍問題といった各案件を精査すると、各外国領事館がそれぞれに中国と結んだ条約の規定を厳守させようと競合していたことや、公廨が中国の伝統社会と矛盾しないように訴訟手続を運用していたことなど、租界社会のより複雑な様相が明らかになります。



上海租界工部局1916年度の記録と入江啓四郎『中国に於ける外国人の地位』（1937年）



[Wikimedia Commons, "International Mixed Court at Shanghai", Public Domain.](#)



[Wikimedia Commons, "1912 map Shanghai and Environs by Madrolle", Public Domain.](#)

研究・社会活動実績

学術論文として、郭まいか「中華民国期上海共同租界における政治犯引渡について」『東洋史研究』第80巻第4号、2022年3月や、中国語論文、郭玫珂「1920年代北京政府與上海租界之關係——以會審公廨為中心」劉維開編『近代中国与東亞研究系列之一：1920年代之中国』政大出版社、2022年など。国際学会での発表として、Maika Kaku, Chinese Intellectuals and the Shanghai Mixed Court, Session “Changing Perceptions of the National and the International in Interwar China”, AAS-in-Asia : Asia in Motion: Beyond Borders and Boundaries, 2017 (Korea) など。

産学官連携の可能性

近代上海の司法制度と社会構造を手がかりに、異文化間の交渉や共生のあり方を歴史的に検討しています。これらの知見は、多文化共生や国際理解に関する教育・地域連携の取り組みに活かすことができるでしょう。歴史的事例を通じて現代社会の課題を考える視点を提供したいと考えています。

日米テレビ放送のデジタル化と移行プロセス

金山 勉

Tsutomu Kanayama

国際文化学部／国際文化学科

教授／Ph.D. (Mass Communication)



研究業績データベース

YouTube公式動画

キーワード

国際コミュニケーション／国際ジャーナリズム／マスコミュニケーション／テレコミュニケーション

研究概要・実践活動

1990年代から始まった、世界的なテレビ放送メディアのデジタル化について日米の移行政策に焦点をあてて研究してきました。同時に、米国社会における日本人のイメージ研究も行っており、1990年代半ばにMLBに本格的に調整した野茂英雄選手の社会・文化的な受容についてのジャーナリズムにかかわる内容分析研究も行っています。

研究・社会活動実績

日本の放送政策とその適用について国際メディア比較の観点から研究を続けてきました。テレビジャーナリズムおよびスポーツ実況アナウンサーとして経験に基づき、テレビ番組批評および関連審査員としての活動もしています。

産学官連携の可能性

メディアのイメージ分析を通じた、メディア・リテラシーや社会に対して自ら情報コンテンツを発信する「パブリック・アクセス」にかかわるコンテンツ制作のアドバイスや指導にかかわる連携をさせていただくことができます。

アジアの地域秩序変容とメディアの役割

貴志 俊彦

Toshihiko Kishi

国際文化学部／国際文化学科

教授／文学修士



研究業績データベース



YouTube公式動画

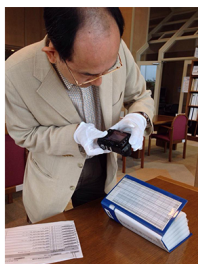
キーワード

戦争／占領／戦後／東アジア／メディア／ジャーナリズム／表象／通信／地域社会

研究概要・実践活動

京都大学時代は、現場でのフィールドワークを重視しつつ、実証的な歴史学の探究を進めてきた。研究の柱は三つである。第一に、環アジア太平洋世界における地域秩序の形成と戦争の影響。第二に、地域イメージをめぐるビジュアル・ジャーナリズムの国際比較。第三に、地域社会の視点から捉える冷戦期の多様な認識と記憶の検証である。これからも、国内外の研究者と連携した共同研究を重ね、多くの成果を日本語のみならず、英語・中国語・韓国語・ドイツ語などで発信し、国際的学術対話の促進にも努めていきたいと考えている。

【主要著作】『戦争特派員は見た』（講談社、2025年）、『イギリス連邦占領軍と岡山』（日本文教出版社、2025年）、『帝国日本のプロパガンダ』（中央公論新社、2022年）など多数。



研究・社会活動実績

京都大学名誉教授

環アジア太平洋地域の地域秩序形成や戦争の影響、ジャーナリズムの国際比較、ビジュアル・メディアの役割、冷戦期の地域社会の認識と記憶などの検証に取り組み、国内外の研究機関、出版社、報道機関との共同研究を推進してきた。また、韓国の『만주연구（満洲研究）』など、国際的学会誌の編集諮問委員、人事評価委員などを務め、国際活動も重視してきた。

産学官連携の可能性

アジア近現代史や地域研究、戦争と記憶の分析に基づき、出版社や報道機関との共同研究を通じて得られた成果は、教育コンテンツ、メディア制作、文化発信、地域振興プログラムなど多様な産業及び行政分野と連携が可能である。また、国際学会誌の編集諮問委員としての経験は、グローバルな研究ネットワークを活かした企業・自治体との共同プロジェクトにも応用できる。

東南アジアを結ぶネットワーク

工藤 裕子

Yuko Kudo

国際文化学部／国際文化学科

准教授／博士（文学）



研究業績データベース

YouTube公式動画

キーワード

社会経済史／東南アジア史／インドネシア地域研究／インドネシア語

研究概要・実践活動

東南アジアの社会経済史を専門としています。特にインドネシアを調査対象として、現地の社会経済の特徴をアジア域内との関係から研究しています。例えば、ジャワ島で生産された砂糖とアジア市場への貿易や、台湾で生産されたジャスミン茶が東南アジアに輸出された後に現地生産化された過程について、ヒトやモノ、カネの流れから分析してきました。モノに注目することで、その生産地の環境や社会状況、さらにその流通の経路や方法、またモノを入手し消費する側の社会のつながりがみえてきます。これらを統合的に捉えることで、その地域の自然や人間、文化の特徴が理解できるのではないかと考えています。



研究・社会活動実績

近年の東南アジアの発展は目覚ましいものがあり、日本との関係もますます緊密化しています。現在生じているさまざまな社会問題の歴史的な経緯を考えながら、多民族・多宗教社会の在り方や社会格差、経済発展について考察しています。

産学官連携の可能性

インドネシアをはじめとする東南アジア諸地域への進出や人的交流、文化交流など。

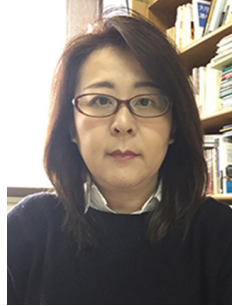
多文化共生社会に活かす言語文化力研究

末弘 美樹

Miki Suehiro

国際文化学部／国際文化学科

教授／博士（言語文化学）



研究業績データベース

YouTube公式動画

キーワード

言語文化力／複言語・複文化主義／多文化共生社会／異文化間マネジメント／異文化コミュニケーション／異文化接触／アイデンティティ／ICT活用

研究概要・実践活動

言語文化学を専門とし、言語や文化のソフトパワーとしての役割や、多言語・多文化環境における言語的・文化的ダイナミクスのメカニズムを探究。異文化接触によるアイデンティティ変容の実証研究を基盤に、外国人材を対象としたVR活用型日本語教育支援を展開。また、海外研修プログラムの設計・実施を通じて、異文化コミュニケーション教育を実践し、複言語・複文化主義の理念に基づく多文化共生社会の基盤づくりに取り組んでいます。



協力合意



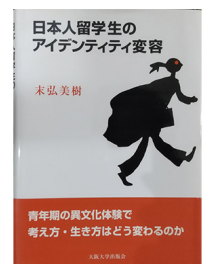
国際会議



異文化協働学習型研修



VR技術の実験的導入



主要著書

研究・社会活動実績

日本文化や社会の中で形成された個のアイデンティティが、異文化との接触を通じてどのように変容するのかを主題に研究を進めてきました。これらの知見を活かし、交流先大学と連携して海外研修を設計・実施しています。現地学生との協働学習や共同研究を通じて、学生が異文化に深く接触し、自己省察とアイデンティティ再構築を促す教育実践を展開しています。

産学官連携の可能性

これまでに外国人材受け入れに関する送り出し機関からの要請を受け、日本語教育支援や異文化間マネジメントに関する講義・ワークショップを複数の機関で展開しています。現在はVR技術を活用した教育手法の開発を通じて、実践現場と研究を結びつける取り組みを進めており、今後は行政・企業・地域福祉機関との協働による連携モデル構築を目指しています。

繋がるネットワークからみるアジア

陳 來幸

Chen Laixing

国際文化学部／国際文化学科

教授／博士（文学）



研究業績データベース

YouTube公式動画

キーワード

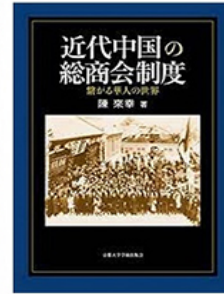
近代中国社会経済史／日本華僑／冷戦／総商会／台湾との被災地交流／客家研究／台湾／日中関係／チャイナタウン

研究概要・実践活動

台湾にルーツを持つ日本生まれの華人三世です。神戸の華商の家庭に育ち、近代中国の商業会議所組織である中華総商会のネットワークを研究してきました。一方で、世界各地に根を下ろした華僑華人がどのような制度のもとで現地に溶け込み、それぞれの地に何をもたらしたのかについて比較研究をしています。歴史学を中心とした手法を中心としますが、阪神淡路大震災での被災を機に、インタビュー、現地調査、資料の保存活動の重要性に気づき、日台被災地交流の活動にも関わっています。また、現在は孫文記念館副館長としての活動や神戸華僑歴史博物館の維持運営という社会貢献活動にも従事しています。



（風響社、2023年）



（京都大学学術出版会、2016年）



（勉誠社、2016年）



サンフランシスコチャイナタウン東華医院



金門島山后（神戸に進出した）王家家塾



神戸関帝廟



香港大澳ドラゴンボートレース

研究・社会活動実績

アジア太平洋地域では華人はいまなお圧倒的な存在感を示しています。日本では開港後居留地を中心に中華街が形成され、新たな新移民（新華僑）が不断に加わりながら、在日華僑は最大の外国人集団として存在し続けています。広がるグローバル化と内なる国際化の双方を研究の二本柱としています。これまで収集してきた華僑関連資料は神戸華僑歴史博物館の資料室に整理・公開し、この分野では唯一無二の宝庫となっています。

産学官連携の可能性

長年にわたり神戸市外国人市民会議の座長・副座長を務めてまいりました。オールドカマーとニューカマーが抱える異なる課題を受け止め、行政や民間団体がどのような協同体制を構築しうるかについての知見を提供することができます。また、日本華僑華人学会、神戸華僑華人研究会、孫文研究会の代表や理事として、学界にも貢献してきました。

脱構築的アプローチによる国際関係論

土佐 弘之

Hiroyuki Tosa

国際文化学部／国際文化学科

教授／修士（学術）



研究業績データベース

YouTube公式動画

キーワード

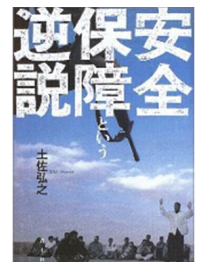
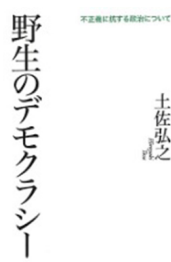
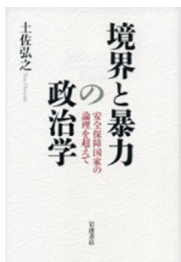
ポリティカル・エコロジー／プラネタリー・ヘルス／気候正義／入植者植民地主義／人種資本主義／移行期正義

研究概要・実践活動

プラネタリー・ヘルスの政治について科学研究費の助成を受けながら研究しています。文献的研究を中心に進め、その途中成果として『国際政治』に寄稿した論文1本を公刊、そして人間の安全保障学会での基調講演用に用意した英語論文1本を、のちにワーキング・ペーパーとして公開しました。



著書カバー



研究・社会活動実績

上記に記したように科研費の研究プロジェクトを遂行しながら、途中成果について下記のように数本の論文を公表しています。・「プラネタリーヘルスの危機と新たな開発原病 ―健康／病気―の政治に関する一考察」『国際政治』211号、2023年、107-122頁など。

産学官連携の可能性

過去に日本学術振興会・国際科学研究費委員会専門委員などを務めたこともあり、今後もこのような形態での学官連携はありうると考えております。また、産学連携という観点からは、特に出版業界との連携が今後も想定されます。直近では人文書院から単著『政治的エコロジー』を公刊し、さらに雑誌『現代思想』などへの寄稿の実績もごございますので、今後もそうした活動を継続していく可能性は高いと思われます。

日英比較婦人参政権運動史、女子高等教育史

富田 裕子

Hiroko Tomida

国際文化学部／国際文化学科

教授／博士（文学）



研究業績データベース

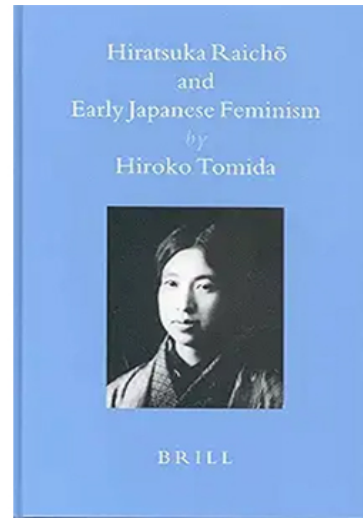
YouTube公式動画

キーワード

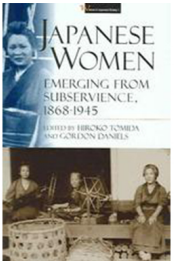
女性学／ジェンダー学／女性史／英国文化／英国社会／オーラルヒストリー

研究概要・実践活動

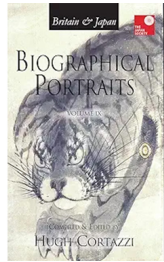
私の研究は日英比較女性史・ジェンダー史、英国の文化と社会、オーラルヒストリーと幅広く、学際的な国際比較に重点を置いてきた。これまで携わってきた主な研究プロジェクトは、日本の女性解放運動の先駆者である平塚らいてう、市川房枝、奥むめおなどの生涯と日本女性の地位向上への功績についての考察だ。彼女らが海外の女性運動家たちから何を学び、自らの運動の中でどう生かしていたかについても探究した。現在は、留学経験を持つ日本の女子高等教育のパイオニアである津田梅子、安井てつ、大江スミについての研究に携わっており、彼女らが英国の女子高等教育のパイオニア、E.P. Hughesから受けた影響についても追究している。



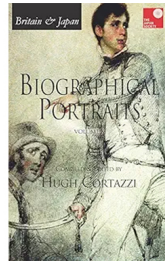
平塚らいてうに関する英語で執筆した単著の画像



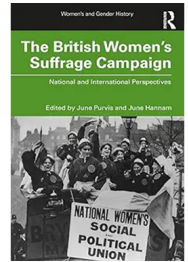
エジンバラの国際会議の編著の画像



Japan Societyの支援による日英共同研究成果1



Japan Societyの支援による日英共同研究成果2



June Purvis教授主催の国際会議の成果

研究・社会活動実績

学際的な研究方法を用い、国際比較に重点をおいた研究成果は、英語の著書や日本語並びに英語で執筆した学術論文の中で発表した。日本女性の活躍ぶりを世界に向けて英語で発信した研究業績により、日本女子大学より平塚らいてう賞顕彰を受賞した。社会活動としては、英国のエジンバラ大学で、日本女性をテーマにした英国初の国際会議を主催し、日本女性をテーマにした展示会や映画の上映も企画し、エジンバラの一般市民に公開した。

産学官連携の可能性

これまで英国のJapan Societyとの共同研究を行い、日英交流事業に積極的に携わってきた。また日本の外務省支援の日英の学者による共同研究プロジェクトにも参加し、その研究結果は英語で出版された。更に英国のBBCのラジオ番組'Four Corners'にも何度が出演し、日本文化についてインタビューを受けた。

移民史からみる日本をめぐる人の移動と共生

長村 裕佳子

Yukako Nagamura

国際文化学部／国際文化学科

講師／博士（国際関係論）



研究業績データベース

YouTube公式動画

キーワード

社会学／海外日本人移民史／ブラジル／在日外国人／オーラル・ヒストリー

研究概要・実践活動

日本人の中南米への移住は19世紀末から始まり、戦中に一時中断された後、戦後は1970年代頃まで集団での移住が続きました。1980年代以降、今度は中南米へ移住した人々の子孫である日系人が就労を目的に来日するようになりました。特に、1990年の入管法改正によって日系人へ定住者ビザの資格が与えられると、来日者数が激増しました。このような世代を越える移動経験を経て、日系人が日本と中南米の両側で形成してきたネットワークやコミュニティ、多様なアイデンティティについて研究しています。ライフストーリー・インタビューや移住者らが書き残してきた資料の分析を通じて、それらの日系人の変化を考察しています。



そうじゃインターナショナルフェスタの様子



そうじゃインターナショナルフェスタ各国料理の販売



外国人集住都市会議おおいずみ2022の様子



研究・社会活動実績

多文化共生に関する市民向け講座の開催や情報発信に取り組んできました。JICA緒方貞子平和開発研究所 客員研究員、総社市日本語教育事業運営委員、ESD岡山アワード選考委員などを務める。主な編著に『移動の歴史と日系ルーツ——トランスナショナルな経験からみる紐帯と文化』（2025年、不二出版）、『多文化共生と民族的マイノリティ——近現代日本をめぐる「人の移動」の歴史から』（2025年、明石書店）など。

産学官連携の可能性

海外からの労働者の来日が増えつつあるなか、さまざまな現場でいかに外国人労働者やその子どもたちを受け入れ、共生を進めていくかが大きな課題となっています。現在は総社市日本語教育事業の運営委員として多文化共生事業に携わり、地域社会の受け入れ状況や日本語学習者の様子を考察しています。今後は、他にも多様な事例についての調査研究を進め、実践の場で活用できる情報やノウハウを普及していけないかと考えています。

アフリカ音楽—歌い踊ることの宗教と政治

松平 勇二

Yuji Matsuhira

国際文化学部／国際文化学科

准教授／博士（文学）



研究業績データベース



YouTube公式動画

キーワード

音楽人類学／宗教人類学／宗教儀礼／ポピュラー音楽／民族音楽／アフリカ／音文化

研究概要・実践活動

主な調査地をジンバブエ共和国として、ポピュラー音楽やいわゆる「伝統音楽」に注目し、宗教・政治・音楽の相互関連について研究してきました。サブ・サハラアフリカのほとんどの社会には独自の文字がほとんど発達しませんでした。文字の代わりに人々が情報伝達に用いてきた手段の一つが、口頭伝承や音楽、およびそれらを生み出すパフォーマンスです。したがって、アフリカの音楽には政治や宗教に関する娯楽以上の重要な役割があります。現地では都市と農村に長期滞在して、音楽奏者の家族と共同生活をしながら調査をしています。民族楽器の演奏方法を習得し、宗教儀礼やナイトクラブでの演奏に参加しながら参与観察をおこなっています。



研究・社会活動実績

ジンバブエでは通算約3年間、ショナ語と英語を使って調査を実施してきました。2012-3年にはジンバブエ大学に所属し、現地研究者と共同研究を実施しました。ショナ人の伝統的な楽器である「ンビラ」の奏者として、現地のアーティストとも共演しつつ調査を進めています。日本でもジンバブエ音楽の演奏や教室を通じて普及活動をするほか、現地アーティストの支援活動もおこなっています。

産学官連携の可能性

これまでに、音楽を通じた異文化理解に資するワークショップや講演などを実施してきました（幼児から大学・社会人、シニアまで）。アフリカの楽器に触れたり、歌や踊りを体験したりする機会を提供しています。また、音楽を通じた現地アーティストと医療機関への支援活動やそれを通じて得られた経験についての講演も実施しています。

旧植民地の目線で、世界を捉えなおす

八尾 祥平

Shohei Yao

国際文化学部／国際文化学科

教授／博士（社会学）



研究業績データベース

YouTube公式動画

キーワード

社会学／人種／移民（華僑・華人）研究／パイナップル

研究概要・実践活動

パイナップルのグローバルヒストリーを研究しています。高校の社会科学の中では歴史総合が一番イメージに近い内容です。かつては、バナナやエビを題材にして途上国でつくられたモノが先進国で食べられるという世界的な経済格差が議論されていました。しかし、現在は、途上国が高度成長を経験し、つくるひとと食べるひとが一致するなど、新しい局面も迎えています。こうした研究を通してグローバル化と地域社会における経済振興のあり方や、移民が地域社会に与えるインパクトなどを旧植民地にルーツのある人たちの目線でとらえなおすという課題に取り組んでいます。



研究・社会活動実績

映画関係のイベントを通じて、人的集団の国際移動をめぐる問題についてのアウトリーチ活動に取り組んでいます。

産学官連携の可能性

「国際交流現場体験プログラム」を通じて、国内外の行政組織・企業との人材育成について取り組んでいます。